

## 令和6年度 第1回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日 時 令和6年6月14日(金)  
開会時間 午後2時00分  
閉会時間 午後3時55分

2. 場 所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室

3. 出席者

### 【委員】

和田 久美子 会長  
望月 真里子 副会長  
原田 ゆう子 委員  
成田 麻紀 委員  
土 方 馨 委員  
高橋 聡子 委員  
佐藤 国子 委員  
金子 智紀 委員  
戸澤 めぐみ 委員  
加藤 恭子 委員  
若林 正巳 委員  
藁谷 りか 委員

### 【事務局】

齋藤 永悟 町民福祉部参事(こども政策・子育て支援対策本部担当)  
小林 琢哉 子育て支援課長  
高橋 正寿 子育て支援課副課長兼保育園・幼稚園係長  
山下 優弥 子育て支援係長  
竹内 茂高 子育て支援係主任主事

### 【欠席】

鈴木 綾子 委員  
三堀 睦美 委員

4. 傍聴者 5名

### 5. 議 題

- (1) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの進行管理書(令和5年度)について
- (2) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの時点総括(令和2年度～5年度)について
- (3) (仮称)大磯町こども計画の策定について
- (4) これからの大磯町の子育て支援について

### 6. その他

- ・ 令和6年度の待機児童対策の取組み状況について

## 議題

### (1) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの進行管理書(令和5年度)について

事務局から、【資料1】第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《令和5年度》の説明があり、次のとおり質疑応答が行われ全会一致で「承認」となった。

<意見等>

#### 【委員】

大磯町の手応えとして、特にやって良かったこと、来年度に繋げたいこと等、ポジティブなものが何かあったか、町の評価があれば伺いたい。

#### 【事務局】

令和5年度に18歳以下の子ども(高校生以下)の医療費の無料化を行い、高校生以下のお子さんを持つ家庭の負担が軽減された。他市町村も追随してきているが、真っ先にできたことは良かったと思っている。また、「子どもの居場所」として、朝の子どもの居場所づくりで、両小学校において朝の登校時間になる前の7時15分から8時30分まで、子ども達を学童保育の施設を使い預かり事業を行っている。神奈川県としても大磯町のみの、全国でも珍しい取組みとして取材等も来て好評なので、今後も継続したい事業である。

### (2) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン時点総括(令和2年度～5年度)について

【資料2】第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの時点総括(令和2年度～5年度)について、事務局から説明があり、次のとおり質疑応答が行われた。

<意見等>

#### 【委員】

評価指標である「0～14歳の人口割合」の実数を教えていただきたい。割合だと高齢者が増えるほど0～14歳の人口割合は減ってしまう。割合としては減っているが実は子どもは増えている可能性もある。

#### 【事務局】

0～14歳人口の推移の実数としては、令和2年1月1日は3,480人、令和3年1月1日は3,448人、令和4年1月1日は3,503人、令和5年1月1日は3,415人、今年の1月1日が3,349人と減少している。

#### 【委員】

令和5年度の実績が10.8%となっており、その目標値を今回11.5%で立ててあるのは、この町は子どもが増えても、受入れる余裕があるということなのか。受入れ自体は14歳までの子どもが増えても、受入れ可能な体制になっているのか。

#### 【事務局】

現行計画の「量の見込みと確保方策」から、人数が増えたとしても、幼稚園、保育園、学童保育、一時保育の需要を満たす計画として準備している。進行管理においても、待機児童が12人出てしまっているものの、概ね受け入れ、対応ができる形になっている。そのため、今年度に策定する「(仮称)大磯町子ども計画」においても、目標値と具体的な数値はまだ決まってはいないが、その中で定めた子どもの数は、受け入れできるような計画としていく。

### (3) (仮称)大磯町こども計画の策定について

事務局から、【資料3】(仮称)大磯町こども計画の策定等の説明があり、次のとおり質疑応答が行われた。

<意見等>

【委員】

参考資料3 こども・若者へのヒアリングについて、対象をどの様に抽出するのか教えて欲しい。

【事務局】

対象者は全児童・生徒が基本だが、話し合いをするにあたり低学年は難しいので小学5年生以上として、子ども達の直接的な意見を聴ければと思っている。

【委員】

「【参考資料1】ニーズ調査の集計結果」の11ページ、自由記述の取りまとめで「経済的に苦しい、経済的支援、無償化」が大きく目立つが、そんなに苦しい人が多いのかと驚いた。この「苦しい」は、子育てができないくらい苦しいのか、受け取り方がわからない。助けてあげられるところと助けてあげられない部分があり、我々や町の関わりをどの位考えたら良いのか等で、今後の支援策が変わってくると思う。町内各家庭の貧困率のようなものは把握しているのか。

【事務局】

「貧困率」は社会的に数字として出てきているが、大磯町としての貧困率は把握しておらず、どの位の世帯が本当に困っているかは、掴めていないのが現状である。

【委員】

保育園の保護者会として受けた相談は、「小学校まで給食が無償化されたので、保育園も給食を無償化にして欲しい」という意見が多い。

また、「【チラシ】皆様の声を聴かせてください！」の1行目に「人口減少に歯止めをかけるため」と言われると、自分ごとではないかと思ってしまう人もいるのではないかと思う。もちろん「こんなことがあったらいいな…」という話はあっても良いが、困っている人達が人口減少に歯止めをかけるために何か意見を言おうとはならない気がする。もっと、「子どもと関わる時間を増やすために良いアイデアはありませんか」等、もう少し子育て世代や悩んでいる人に訴えかけられる言葉があると良い。聞き方としては、オープンクエッションで「何かありますか」と聞かれてすぐ答えられる人は少ないので、オープンな質問と具体的な質問を上手く使い分けると良い。

【委員】

大磯町に住んでいて恩恵を受けていると思えるような情報発信の仕方があると良い。

【委員】

保護者について、どこの窓口に行ったら「苦しい」を言えるのか、学校であればどんな支援策が出せるのか等の情報が知られていないと思うし、その様なことも支援になってくると思うので、今後、どのように考えていけば良いのか町の考えを聞きたい。

【事務局】

アンケート結果から見ると、「ロコミ」や「人づてに聞いた」が多いので、町がやっている事業など、困っている時に使える制度を口伝えでも伝えられるような、町全体の地域のつながりを作っていくこともひとつだと思っている。

#### 【副会長】

聞いた声をどう活かすか、行政がやっていることをどう発信するかは大事なことである。

また、大磯町がいろいろなところに出向いて小中学生の声を聴こうとすることも、とても大事である。「わくわく」ミーティングも対象が小学校5年生からなので、5年生が自分も応募したいと思える様な発信の仕方を先生からアドバイスいただき、子ども達が発言しやすくなる様な工夫をし、子どもの声に寄り添いながら集めていければ良い。

#### 【委員】

園が、保護者の方へ意見を伺うと「情報が欲しい」と言われるが、園としてのニーズを改めて考えると、人材確保がまず一番であり、どんなに箱があっても良い人材がいないと成立しない。園と町と一緒にできる支援にどのようなものがあるのか、もう少し保護者や皆様の話を聞きながら園として考えたい。

#### 【委員】

保護者のニーズがあり、それを園の財源では出せない時に、町が協力する関係性が良いと思う。

### (3)これからの大磯町の子育て支援について

事務局から説明があり、次のとおり意見交換を行った。

<意見等>

#### 【委員】

小学生・中学生になった時に自分で意見が言えるような子を育てたいと思った。また、直接この様な場に参加できない幼稚園の保護者の方々にも日頃からアンテナを張り、つぶやき等も大切に拾い上げていきたいと思った。

#### 【委員】

子ども達がお互いに意見を出し合い、それを受け入れられる、許容できる環境づくりが非常に大事だと思っている。個々の教育目標の中にも備わっているが、お互いを認め合うことで協力していける子ども達を小学校6年間で育てていきたいと考えている。とはいえ、小学校6年間の中で、小さな子どもから思春期にかかる子までいるので、縦のつながりを大事にしながら、6年生が1年生の面倒を見る様なことで、自己有用感を高め子ども達もこんな先輩になりたいという様な思いを抱ける機会を多く作りたいと考えている。

#### 【委員】

子ども達が自主的に考え、自分でわくわくしながら「これやってみよう」という子に育ったら良いと思うが、そこに携わる大人がまずその様な気持ちにならないと、子ども達だけに求めているも変わっていかない。「言ってもどうせ変わらないし」と感じると意見を発することも少なくなるので、些細なことも取り入れられる人間になっていくと、「言えば変わるかもしれない」と言う期待感も持てるので、小さいことでも「意見が出たのでやってみました」とアピールしていけると変わっていけると思う。その様な意味では、町がやっていることについて、園を通して保護者に伝える役割はできるので、町の方も園を利用していただければと思う。

#### 【委員】

若いお母様、お父様達が意見を言えたら良い。自分の意見をしっかり言葉にできる方とできない方がいる。思いは皆あるが、自分からここに入っていける方は少ないので、そのような方の声をどう拾うかが重要である。

また、子ども達に関しては、お兄ちゃん、お姉ちゃん、近所で遊んでくれる方達がいると思うので、その様な少し上の世代の方に小さい子の声も拾って聞いてくれると面白い声が聞けると思う。

#### 【委員】

大人だけではなく子ども達の意見を聞けるのはとても良い。大磯町に限らず国の施策を見ていると、「言っても無駄だから選挙に行くのもめんどくさい」と諦めるのは勿体無いと思う。何が欲しいかという、きっと目先の欲というか「公園が欲しい」、「公園に遊具が欲しい」、「学校でこんなことをしてほしい」等、町の事よりも学校のことがたくさん出てくると思うが、町と学校が協力して子ども達の声が少しでも反映できるミーティングになれば良いと思った。

#### 【委員】

対象者がなぜ5年生から30歳までなのか、「わくわく」がキーワードになったのは何故か知りたい。小学校5年生の「わくわく」と30歳の「わくわく」は当然違い、どうやってまとめるのか。

#### 【事務局】

自分達が言った意見をどこに反映されたかができる限りわかるようにしたい。その中で期待感を「わくわく」という言葉で表現した。当然、子どもの「わくわく」と大人の「わくわく」は違うが、“子育てするなら大磯”と皆さんに思っていたきたいので「わくわく」というキーワードを入れさせていただいた。

#### 【委員】

町に何かしてもらうことだけではどうにもならない。私自身が「わくわく」を発信できるようになりたい。町がやってくれた、やってくれなかったではなく、私達が町に対して何がやれるのか考えたい。毎日外でお散歩させていただいて町が園庭のようなものであるし、町にお世話になっているので、町に対して何か恩返しをできる様なこと、そうするとお互いに恩づくりができる様な関係ができれば皆で余力のあるまちづくりができて「わくわく」していけると思った。

#### 【委員】

「わくわく」と言う抽象的な言葉でまとめず、町長や議員の皆さんに来ていただいて、熱い本気な議論も必要かと思う。「これはこうだ」と町としてのリーダーシップで引っ張るべき部分と、「この方向を皆さんと一緒に考えたいので、力を貸してください」というものと、公共には2種類あると思うので、住民から上がってきた意見だけでなく、「これは町がしっかりやっていく、守っていく」という部分を上手く組み立て、どこで線引きするかは難しいがぜひ、考えてみたい。

#### 【委員】

「わくわく」ミーティングはとても良いと思ったが、どの様な手法で皆さんから意見を聞き取って取りまとめるのか。本当に「わくわく」するようなミーティングになるような、準備と打ち合わせをしていければと素晴らしいものになると期待をしている。支援する側で思うのは、自分が育っていた時代と自分の子育て時代と世代間ギャップを感じている。そこをどの様に埋めていくのか、「今の子ども達はこんな感じ」、「親達のどんなところが大変なのか」、「おじさん、おばさん達はどの様に感じているのか」を疑問に感じている。子育てしている親を応援したいので、なぜ、協力が必要なのかと納得できるものを考えていきたい。

## 【委員】

施設を運営される側の人材が少ないのは如何なものかと思う。学校の先生になりたいという意識を持たせる何かがあっても良いのかと思う。保育園や小学校で働くことが人気となる様な施策を考えていけると良いと思う。

大磯町には小中高があり、その中で GIGA スクール構想が広がっている。GIGA スクール構想のような取組みをはじめ、情報政策の部分と教育の部分は、ある程度連携し、取組んだ内容は周知をした方がよい。今後、このような連携をするための検討の場を設けるのであれば自分も参加したい。

## 【委員】

子どもが学童での出来事を保護者の方に伝えることで会話が増え、保護者の方に還元し学童を利用しやすくなると良いと思った。

また、学童のスタッフ人材確保のため、中学生のボランティアや高校生のバイト等で関わってもらうことで、情報発信ができれば良いと思った。

## 【副会長】

大磯町から説明があった子どもの意見を広くしっかり聞くという姿勢で、何重にもいろいろな方法で一生懸命聞こうとしている素晴らしい取組みだと思う。

調査報告の中にもあったが、先天性疾患や障害を持っている方は約5%あると話があったが、全体からすると数としては少ない。しかしながら、病気の子も、医療的ケアが必要な子どもが、医療が進み良い意味で増えている。さらに、こちらも良い意味でずっと病院が居場所ではなく、自宅で過ごすことも可能になってきて、地域で生活している子どもが増えている。近い将来、大磯町でも、何かしらの医療的ケアが必要なお子さんが出てくるのが、想像ができる状況なので、その面では、全体のいろいろな子どもと保護者が幸せに暮らせる様に、もう少し手厚いサポートを考えていけると良い。

## 【委員】

子ども関連に直結して考えると、父母の仲が良いか、パートナーシップの様な話も少し盛り込まれると良いのではないかと思う。

## 【会長】

今、いただいた意見も含めて、次期計画に反映するように努めて欲しい。

## その他

### (1) 令和6年度の待機児童対策の取組み状況について

【資料4】 令和6年度の待機児童対策の取組み状況について、事務局から説明があり、次のとおり質疑応答が行われた。

<意見等>

## 【委員】

「楽友庵」に預けている方の意見を聞くと、「別にこのままでも良いのではないか」という意見もある。そもそも待機児童を減らそうということで認定こども園の話が始まったが、このままでも良いのではないか。

**【事務局】**

大磯町としては、基本的に受け皿が不足している中で、大磯幼稚園は老朽化していること、楽友庵は民間の施設を借りて運営しているため時限的にしか利用できないことを踏まえると、大磯幼稚園で0～5歳までの子どもが快適に過ごせるよう、多年代が交流できるような受け皿を拡充していく方向で考えている。

今のままでも良いという意見もあることは承知しているが、様々な観点を含めて考えていくと、認定こども園に移行した方が良いという状況である。

**【委員】**

どうか早くこども園化しなくてはという流れを感じている。

**【会長】**

「楽友庵」の預かり保育は2歳までだが、こども園になると小学校入学前まで継続して通えるということがある。

**【事務局】**

今ある広い幼稚園の敷地を利用しながら待機児童を解消していくことを考えていくと、認定こども園化がより良いと判断したところである。

**【委員】**

楽友庵のお散歩の方は、マンツーマンで歩いているように見受けられる。保育士を手厚く配置できているのか。

**【事務局】**

楽友庵の職員の配置は、定員 18 人を想定した 10 人で、その内訳は施設長が 1 人、保育士 8 人、調理員と栄養士を兼任の方が 1 人となっている。それに対して現在の利用人数は 13 人で、その内訳は 0 歳児 2 名、1 歳児 4 名、2 歳児が 7 人という状況である。

以 上。